

2 学力向上アクションプラン

横浜市立東中田小学校 令和2年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

| 学校教育目標 | 教育課程全体で育成を目指す資質・能力 |
|----------------|--------------------------------------|
| 自らかがやく、ともにかがやく | 自分づくりに関する力 心身ともにたくましく生きる力 言語能力 |

(2) 中期取組目標

| 中期取組目標 |
|---|
| <p>学校教育目標の具現化のために、「いじめのない、明るく仲良く楽しい学校」づくりを目指します。(一人ひとりに寄り添い、見守り、安心して子どもたちが自分のよさを発揮できる場作りを「ハンドメイド」の合言葉のもと、行っていきます。)</p> <p>(知)分かる喜びと学び合う楽しさを通して、課題解決に向けて粘り強く取り組む態度を育てます。</p> <p>(徳)自尊感情を高め、物事の善悪を判断し、感謝の気持ちを持ち、思いやりをつなげ、実践していく心と態度を育てます。</p> <p>(体)自他の生命を尊び、困難にも負けなたくましい心を持ち、進んで健康づくりに取り組む態度を育てます。</p> <p>(公)地域の方々への挨拶も自分から進んでできるような地域との関係づくりをし、まちが大好きな気持ちを育てます。</p> <p>(開)様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げ、国際社会で生きる力を育てます。</p> |

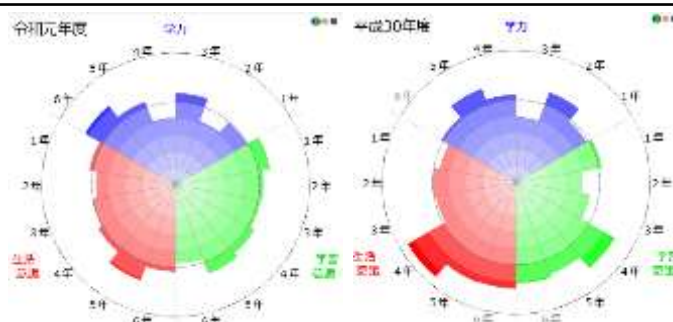
(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|----------|--|
| 生きてはたらく知 | ①指導の統一性を意識した教科担任制を継続し、より安心して自己表現ができる授業展開を図る。 |
| 担当 | ②自分づくりに関する力を育むために、可能な限り地域教材を意識し、育てたい資質能力を身に付けさせるための支援の在り方を研究し、授業改善を行う。 |
| 学習部会 | |

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

横浜市の平均より学力が高い学年が3学年、低い学年が3学年ある。全ての学年で前年度の学力が概ね維持できていると考えられる。学習意識及び生活意識は、多くの学年が横浜市の平均とほぼ同等程度に位置している。その中でも、第1学年(現2年生)、第4年生(現5年生)、第5学年(現6学年)は、平均を上回っている。



(2) 教科学習の状況

- 国語科：学年によって学力の差が大きく開いており、苦手だと考えられる領域が異なる。全体的に知識理解技能が低い傾向にある。
- 算数科：市平均を下回っている学年・領域が多く見られる。第1学年(現2年生)以外の学習意識の低さが見られる。
- 社会科：市平均を下回っている学年がある。しかし多くの学年で、基礎・基本が概ね定着していると考えられる。
- 理科：多くの学年・領域で市の平均を上回っている。理科の学習に対する意識は他教科や市平均と比べて高い傾向にある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)

令和元年度までの過去3年間の経年変化の状況から、学年ごとの学力の差が大きくなってきたことが結果からうかがえる。学習意識や生活意識が低かった学年の意識が、横浜市の平均に近づいて上がってきた。多くの学年で自己意識(自分が好きなどの質問項目)は高まってきているが、疑問に思ったり、解決したいと思ったりしながら、課題を自ら生み出す力が弱いところが見とれる。よって主体的に学習に取り組む中で問題解決しながら課題を解決する喜びや達成感を味わわせていくことが重要である。昨年度に引き続き子どもたちにとって身近な課題や地域材を活用しながら学習を進め、「自分づくり」に関する力をより高めていきたい。

3 令和2年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

| | 育成を目指す 具体化した資質・能力 | 具体的取組 | |
|--------|---|---|---|
| | | 前期 | 後期 |
| 1年 | ◆周りに興味をもつ ◆自分の考えをもつ ◆自分ができることを考える力 | ○学習を通して、自分にできることは何かを考えられるようにする。 ○実態に合わせた体験活動を通して、周りに興味をもって、課題に向き合えるようにする。 | ○自分にできることは何かを考え、実践できるようにする。 ○周りに興味をもって課題に向き合う中で、自分の成長を感じられるようにする。 |
| 2年 | | ○学習全般を通して、人やものとの関わりの中で、自分の思いや考えをもつことができるようにする。 ○可能な限りの体験活動を設定することによって、周りに興味をもち、自ら学習する意欲を高める。 | ○学習全般を通して、人やものとの関わりの中で、考えをもち、自分の思いや考えを体現しようとする。 ○可能な限りの体験活動を設定することによって、周りに興味をもち、自ら学習する意欲を高める。 |
| 3年 | ◆自分の考えを伝える力 ◆振り返りができる力 ◆相手の考えを聞き入れる姿勢 ◆自分の考えを深め整理する力 | ○課題に対して自分の考えをもち、それを書いたり話したりして表現する活動を行う。 ○できるようになったことや、難しかったことを自覚し、次の課題解決への意欲につながるように毎時間振り返り活動を行う。 | ○課題に対して自分の考えをもち、それを書いたり話したりして表現する活動を行う。 ○相手の考えを聞くことで、自他の考えの相違点や共通点に気付き、考えようとする。 |
| 4年 | | ○相手の考えを聞いたり読んだりして理解し、対する自分の考えを整理して書いたり、話したりする活動を行う。 ○自分自身の成長を自覚したり、次につながる疑問を整理したりできるよう毎時間振り返り活動を行う。 | ○自他の考えの相違点や共通点に気付くことで、よりよい考えになるように話し合い、実践的活動を行う。 ○段階的な発表場面を展開し、自分の考えを検討することを通して考えを整理し、まとめる力を育てる。 |
| 5年 | ◆課題解決の方法を選択する力 ◆多角的なものの方 ◆相手を尊重する力 | ○生活上の課題を解決するために、多様な意見を取り入れながら、よりよい解決方法を考え出せるようにする。 ○子どもたちが納得するまで自分の考えを表現し、伝えるようにする。 | ○生活上の課題を解決するために、多様な意見を取り入れながら、よりよい解決方法を考え出し、実践する。 ○子どもたちが納得するまで自分の考えを表現し、伝え合う。 |
| 6年 | | ○学習問題を解決していく中で、様々な角度から事象や問題を捉えたり、見つめ直したりする力を伸ばす。 ○お互いの意見の共通点や相違点を認め合いながら話し合い活動を行う。 | ○学習問題を解決していく中で、様々な角度から事象や問題を捉え、見つめ直し、選択する力を伸ばす。 ○お互いの意見の共通点や相違点を認め合いながら合意形成が図れるような話し合い活動を行う。 |
| 個別支援学級 | ◆周りに興味をもつ ◆自分の課題を知る ◆自分の考えを伝える力 | ○仲間との共有体験や共同的な学習活動を設定する中で、身近な人や環境について興味関心をもったり自身の課題について気付いたりできるようにする。 ○様々な表現方法を例示しながら、考えや思いを表現する場面を設定することで、自分に合った表現の仕方を身に付けながら自分の考えを伝えようとする。 | ○仲間との共有体験や共同的な学習活動を設定する中で、身近な人や環境について興味関心をもち、課題解決していこうとする。 ○自ら伝え、表現したいという思う場面での実践を通して、よりよく伝え、表現しようとする。 |